

令和3年度（第1回）山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和3年6月28日（月） 9時00分
場 所	山鹿市役所（5階501会議室）
出席者	早田市長 堀田教育長 教育委員：野中委員、上田委員、野口委員、立山委員 市 職 員：大林総務部長、渡邊教育部長、園田教育部次長、村上首席教育審議員、佐藤教育総務課長、田崎学校教育指導室長、山西学校教育指導室審議員、西浦学校教育指導室審議員、西島学校施設課長兼学校規模適正化推進室長、井上社会教育課長、栗原社会体育課長、豊田子ども課長、川上子ども課審議員、中満教育総務課長補佐、湊上学校施設課長補佐、堀社会教育課長補佐、古川社会体育課長補佐、原口子ども課長補佐、徳永教育総務課総務企画係長、江崎主事
傍聴者	

- 1 開 会
- 2 議 題  
山鹿市教育大綱の策定について
- 3 その他  
(1) 次回開催について  
(2) その他
- 4 閉 会

発言者	発言内容
徳永教育総務課総務企画係長	<p>令和3年度第1回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>開会に際しまして、議題と会議の公開の可否について確認します。</p> <p>本日の議題は、「令和3年度からの山鹿市教育大綱の策定について」となっております。</p> <p>この議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議、及び議事録につきましては公開といたします。</p> <p>また、会議の時間は、市長の公務もございますので、午前10時00分には終了したいと思いますので、ご協力の程よろしく申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者の方はおられません。</p> <p>それでは議題に入ります。早田市長に会議の議長をお願いします。</p>
早田市長	<p>本日は、堀田教育長をはじめ、教育委員の皆さま、それぞれの関係職員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>教育大綱につきましては、法の改正によりまして地方公共団体の中にこの会議を設置することができるようになりました。教育委員会だけではなく、行政側が一緒になって、この山鹿市の教育を考えていくということです。私も皆様と一緒に山鹿の教育を考えていけるということを嬉しく思います。</p> <p>しかしながら、コロナウイルスが子どもたちにも感染したりする問題も起きております。山鹿市全体を挙げてコロナウイルス感染対策には取り組んでいるところでございます。ワクチン接種も行政だけではなく、教育委員会のご協力もあって順調に進んでおります。</p> <p>これからもお互い協力できるところは協力し合っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>今回の大綱の策定につきましては、何回か会議を行いながら決めていかなければいけません。まずは私の教育への思いを聞いていただき、より良い子どもたちの教育大綱を策定したいと思いますので、ご協力よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、事務局より、教育大綱の策定について、これまでの検証を踏まえ説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>教育総務課です。教育大綱の概要について、ご確認を含めてご説明いたします。</p> <p>資料1ページです。大綱とは、地方教育団体の教育、学術及び文化の振興に関する教育の目標や施策の根本的な方針を定めたものとあります。下のほうに地方公共団体の長は、国の基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、総合的な施策の大綱を定めるように規定されているところです。</p> <p>ご覧のとおり、これまで第1次、第2次ということで大綱を策定しておりますが、今回、新山鹿市教育大綱ということで令和3年度から令和6年度までの4年間で今年度中に策定することとなっております。</p> <p>資料2ページです。他計画との関係ということで、山鹿市教育大綱の策定に当たりまして、山鹿市総合計画とありますが、こちらにつきましては後期基本計画が8月策定予定とされております。この計画との整合性ということと、国の第3期教育振興基本計画を参酌しての策定と位置づけられております。その大綱を反映して山鹿市教育基本計画の策定ということで考えているところです。</p>

	<p>資料3 ページです。参考までに第2次山鹿市教育大綱について掲載しているところでございます。この計画の内容は、学校教育及び社会教育に特化した3つの基本方針を定めているところでございます。</p> <p>ご覧の通り、スローガンを掲げ、3つの基本方針を柱として策定されております。内容につきましては、記載のとおりでございます。</p> <p>資料4 ページです。第2次教育大綱の検証ということで、令和2年12月の当総合教育会議で4年間の検証が行われています。会議の主な意見として中嶋前市長の意見、並びに教育委員の意見として記載されているとおりです。</p> <p>下段の決定事項ということで、一項目目に教育大綱の対象期間は、市長の任期に合わせて令和3年度から令和6年度の4年間とするということと、新教育大綱の策定に当たっては、新市長の教育に対する思いを大事にするために事務局から素案を提出すべきではないということが確認されております。</p> <p>5ページ以降につきましては、他の計画との関係ということで、第3次山鹿市教育基本計画体系図、6ページ、7ページには国の第3期教育振興基本計画の概要、8ページ、9ページには関係する法律の抜粋、会議運営規定を掲載しています。</p> <p>10ページをご覧ください。令和3年度教育大綱と第4次山鹿市教育振興基本計画策定スケジュール(案)です。教育大綱につきましては、本日、第1回の総合教育会議ということで、大綱の策定を議題としてお示ししているところです。以降、8月、10月、12月の開催を予定してまいり、定例教育委員会の開催日に合わせて開催を予定しており、年内の策定を考えているところでございます。</p> <p>教育振興基本計画につきましては、ご覧の通り、大綱を反映し、今年度末までの策定を計画しているところです。</p> <p>本日は、第1回目ということで、先ず教育に対する早田市長の思いを申し述べていただき、その後、委員の皆様との意見交換をお願いできればと思っております。説明は以上です。</p>
早田市長	<p>それでは、私の教育に対する思いを述べさせていただきたいと思っております。</p> <p>先ず、この資料をいただいて山鹿市教育大綱を見させていただきましたが、本当に素晴らしいものが出来上がっていると思っております。</p> <p>「命」を輝かせる教育、「志」を育てる教育、「生き抜く力」を育む教育とありますが、本当に奥深く、考えれば考えるほど、こういったことに辿り着くと思えました。この大綱を否定するわけではなく、これをベースにして私の考えを入れた時に、どうなるのかを考えていただければと思っております。</p> <p>私は、選挙で「山鹿創生」ということを皆さん方に訴えてきました。この「山鹿創生」とは、山鹿市民の持つポテンシャルを引き出すこと、これが私に課せられた使命だと思っております。山鹿市民の持つやさしさ、進取の気性、連帯感、これらを山鹿の古人に学び、これらを現代に作り変えること、これが「山鹿創生」です。</p> <p>これを具体的に形に変えていかなければなりません、具体的に何をどうしろということではございません。基本的に、子どもたちは就労前の若い世代に知識と体力と思いやりの心を伸ばしていきたいと思っております。</p> <p>仕事をしている人は、環境に注意を払いながら積極的に労働に励み、自分の能力を社会に活かすこと、また、働きたくても働けない人にも心を配り、バランスの取れた社会を意識すること、年を取って高齢者になったら、経験を後世に伝え社会に</p>

	<p>活かす喜びを享受すること、ということが基本的なことであると思います。</p> <p>最初に申し上げました、就労前の若い世代に知識と体力と思いやりの心を伸ばすことは基本的なことであると思いますが、基本的なことをしっかりと伸ばしてやるのが大切だと思っています。</p> <p>それから、私が今、子どもたちを見ている中で、これから必要になってくるだろうというのは、今、非常に社会の動きが速いです。10年前と10年後の今では携帯電話やパソコン、車など全てにおいて進化が速い。今後10年後といっても、ものすごい進化が訪れると思います。</p> <p>そういった社会情勢に対応する力を育成する。これは世界を視野に含めたところからです。それから、最近はSNS等で人と相対して話すということが随分減っているということです。相対して話す社会性、コミュニケーション能力をしっかりとつけていただきたいと思っています。</p> <p>後は、きちんと挨拶すること、礼儀作法を学校で学んでいると思いますが、一つ気になるのが、生き抜く力と書いてありますが、すべてこれに含まれてくるとは思いますが、災害等で自分の身を自分で守るということです。いざとなったときに、自分の身を自分で守るという力。これは病気でも何でも、自分の健康状態、自分の身を守るためにどういう勉強をしなければいけないのか、そういう守る知識もしっかり養っていただきたいと思っています。</p> <p>私の思いをざっくりお話させていただきましたので、これから皆様と意見交換をしながらより良い大綱の策定をしていきたいと思っていますのでよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、何かご意見がありましたらお願いします。</p>
野口委員	<p>先月の教育委員会で市長の公約を実現するための教育委員会の事業ということで、創生塾や子どもたちの郷土愛と誇りを育む事業の説明がありましたが、市長の思いもそうですが、山鹿創生ということを念頭に進めますということなので、せっかく教育委員会として作っているのであれば、それがちゃんとぶら下がる項目を起こしたいと思います。</p> <p>もう一つ、参酌をするという国の第3期教育振興基本計画の教育政策の目標と施策群ですが、1、2、3は市長がおっしゃったとおりですが、確かな学力の育成、豊かな心の育成、健やかな体の育成とあり、これは基本中の基本であると思いますが、気になったのが基本的な方針3番目の生涯学び、活躍できる環境を整えるという中に、新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の検討とあります。</p> <p>新しい地域づくりに社会教育をうまくはめ込んで、力にしていく、地域の元気づくりにしていくというのはどういうことか毎晩考えましたが分かりませんでした。</p> <p>単なる生涯学習ではなくて、それが地域の元気づくりに繋がるような地域相対としての扱いにもっていきけるような形のものが何かあるはずだと思います。</p> <p>感覚的にはそういうことが大事であると思います。学校も当然やっておられますが、山鹿の特徴というのは山鹿の中心部を除いて小中一貫をやり易く、地域の力もあり、地域づくりで学校を核としてやっていくことが地域の元気づくりに繋がる、それにプラス生涯学習をくっつけるというように、感覚的にそういうことが実現できないかと思いました。</p>

園田教育次長	<p>今、私たちが行っています、地域学校共同活動がまさにこのことであると思いません。学校を核とした地域づくりということをして社会教育法が改正して、今やっています。公民館の指導員に推進委員になっていただき、それぞれ活動を徐々にやっておりますが、これから一生懸命やっていかなければいけないと思っています。</p> <p>また、この仕掛けのために市長の言われた山鹿創生ということで、今年、新しく二つの事業を起こしますので、その事業についてももう少し深くやっていこうというところです。</p>
野中委員	<p>今回、こういう形で最初に市長の思いを聞いて、大変良かったと思います。総合教育会議が始まった時に、嬉しく思ったところです。</p> <p>首長さんが教育に対して、このようにしたいと思っているけれども、何か意見を出して下さいというようなところにとっても期待していたのですが、やはり、法的にも最初だったので、なかなか上手くいなくて大綱を作って検証をするというのがやっとできていたところです。</p> <p>今回、首長さんが市政の中で教育をどのように位置づけられているのか、そこが見えてくるような大綱に仕上がっていけば嬉しく思います。</p> <p>なんとなく何処に責任があるのか、何処に大きなビジョンがあるのか、分からないようなままに統合や合併等が進められてきたように思います。皆、良かれと思ってやってきたのですが、そこにいろんな齟齬が生まれたり、余計なエネルギーがかかったりして成果が上がらなかったと私は感じていました。</p> <p>首長さんが市政の中で教育の位置づけがあって、そのためにこういう風になるということをはっきりしていると、おそらく今まで私たちが悩んできたこともずいぶん解消されてきたのではないかと思います。</p> <p>前回の教育委員会で山鹿創生塾の話聞き、私たちも期待しています。それが前向きに進んでいくということなので、土台にはなるのでしょうかが早田市長の思いで大綱を提案していただければ、それに越したことはないと感じています。</p> <p>ただ、この資料の中に、検証の総括がありますが、どうしてSDGsが入っていないのでしょうか。私は、毎回出していたと思うのですが、伝わっていないのかと思いました。伝わってなくても、このことは何らかの形で入ってくるとは思いますが、むしろ市長さんの方が詳しく理解されていると思いますが、資料の中に出てきていなかったのが気になったところでした。</p> <p>1年かけてじっくりと考えるということなので、施策が遅れないように進んでいけたらと思います。</p>
渡邊教育部長	<p>市長へは抜粋したような形で説明をしておりますが、今後しっかりとお伝えをしていきたいと思っております。</p> <p>我々も議会の答弁で話しましたが、子どもたちだけで5,000人おります。その教育を支えている我々も含めて会計年度職員の方、保育園の方、給食の方等で1,000人は有に超えております。</p> <p>今回、大綱をお作りいただいて、これをいかに浸透させるかが、一つの大きな柱であると思っています。大綱を汲んでいただき、教育振興基本計画を作っていくということは、あくまでも手段の中の一つであります。</p> <p>それをいかに、少なくとも1,000人、場合によっては保護者等、両輪で決め</p>

	<p>ていただいたことは、しっかりと現場に届けるという形を考えていきたいと思っていますので、どうぞ、いろんなご意見をいただいております。創生塾につきましても、次長が申したとおり動き始めておりますので、それを軸として行きたいと思っています。</p>
野中委員	<p>山鹿市の教育の目標を学校に下ろしますよね。県から来たものだけではなく、形を変えて山鹿市の教育大綱に合わせた形で下ろして、そして実践して、それを評価するというをやってきました。今年は前回の重点目標でいくのであれば、子どもたちが5,000人、先生の数が1,000人いて周知と言われるなら、今までの対策はやり替えないとできていないという意味に感じられたのですが、そういうことですか。</p>
渡邊教育部長	<p>そういうことでございます。とにかく大綱等をお決めいただいたことを的確にお伝えするという事です。学校現場もそうですが、場合によっては保護者や取り巻きの方にも、先ほど社会教育と連携あたりも含めてしっかり、こういう方針で市長の考えと教育委員会の考えはさらに広げていくということと一緒に私たちも考えていきたいと思っております。</p>
野中委員	<p>PRが足らなかったということは前から出ていました。</p>
渡邊教育部長	<p>常に、これは課題であると思っております。</p>
野口委員	<p>PRということで、教育大綱は学校のことだけ書くわけではないので、市全体として市の他の部局、社会教育課だけではなくて、文化に関わる所や地域づくりというような部署まで含めて皆さんに知っていただく形をよろしく願います。</p>
大林総務部長	<p>市長部局の方としましては、教育大綱が今おっしゃったように教育部門の計画として認識しているわけではございません。</p> <p>あくまでも総合計画の中にも人づくりということで、これは一つの大きな柱になってございますが、人がいてこそその山鹿市ということですし、人を育てていくということが山鹿市の将来にも役立つということで、それぞれの世代毎に応じた計画は教育部でお作りになったとしても、先ほどあった地域づくり、町づくり、山鹿市づくりといったことにかに市長部局が参酌して上手く全面展開していくかということを考えていかなければならないと思っております。</p> <p>私もこの会議に入らせていただいて、いろんなご意見を伺える貴重な機会だと思っております。</p> <p>特に、今おっしゃったPRにつきまして、いろんな媒体、或いは方向機会を捉えてやっていかなければならないと思っております。そのやり方がまずいのではないかと御指摘があれば、それはまた改善の対象にしていきたいと思っております。</p> <p>いろんな御意見をいただきたいと思っておりますし、私たちもできるだけ情報を差し上げたいと思っております。</p>
堀田教育長	<p>野口委員が言われたことは、今までもずっと思われていたことです。今度、新に首長も変わられ、総務部長も変わられています。そこら辺が山鹿市としてばらばらで動いていたという感があったから、今の意見がでたと思っております。</p> <p>この会議に総務部長が来られているので、本当に良かったと思っております。</p> <p>以前、最初の会議で教育にはお金がかかるので予算のことを言われた時に、それ</p>

	<p>はここで出すことではないと言いましたが、こういう思いがあるということは、総務部長も来られているのでいろんな思いを聞かれるのは良いと思います。</p> <p>次に、意見としまして、市長はマニフェストで山鹿創生を出されており、思いも述べられました。</p> <p>私たちは、こういう大綱もそうですが、目標とするときに点ではなく線で繋がってないといけません。3週間くらい前に、ある幹部職員から教育長は日本一の学園都市「やまが」を創ると言われましたが、あの目標とこの大綱は別々ですか、教育基本計画とは別々ですかと質問がでましたので、別々ではなく全部繋がっているという話をしました。</p> <p>具体的に日本一の学園都市「やまが」ということを教育長に就任した時に、私の思いとして目標として立てました。一つには不登校をゼロにする、全国学力平均をすべて上回る、いつでもどこでだれにでも挨拶をするということがありますが、市長が言われました知・徳・体のバランスです。これからの山鹿の子どもたちを育てることを言われましたが、全部関連しています。</p> <p>これまでの教育大綱も、命を輝かせる、志を育てる、生き抜く力を育む教育とありますが、すべて日本一の学園都市「やまが」に入っています。市長の思いが反映されながら、私たち教育委員会で作っている目標も一つになっていかなければならないと思います。</p>
早田市長	<p>この間の新型コロナワクチン接種予約の際に、子どもたちに応援してもらいました。</p> <p>普通は行政や、お医者さん等のワクチン関係者だけですが、今回はJA鹿本や、商工会会議所、社会福祉協議会、教育委員会にお願いして小学校4年生以上の子どもたちに接種予約のお手伝いをしてもらいました。</p> <p>これは、今までにない取り組みであったと思います。オール山鹿でこの難局を乗り越えなければならないという思いの中で、皆が協力してくれました。</p> <p>こういう繋がりをいろんな面で協力し合いながらやっていくことが5万人の山鹿が成長する過程になるのではないかと思います。野口委員が言われました社会教育にも繋がっていくと思いますので、こういう基本的な一番大事な所をしっかり肝に据えて物事を考えていくことが大事であると思っています。</p>
上田委員	<p>第1回の総合教育会議の中で、早田市長の教育に対する思いを聞かせていただいて本当に良かったと思っています。お話を聞いておりますと、山鹿市民の優しさや知識や連帯感を出していきたい、子どもたちの知識・体力・思いやりの心を伸ばしたい、就労者に対してもありましたが、これから子どもたちにとって必要なことというのは全てにおいて進化が速いです。今までは世界のどこかの話と思って聞いていたことが、もう我が身のことになってきています。</p> <p>そういう状況の中で、市長がおっしゃったように、この社会情勢に対応できる力を子どもたちにいかに付けていくかということ。それから人と相談して話すコミュニケーション能力を付けていきたいということを言われました。それはしっかり子どもたちに付けて行きたいということです。よく考えてみますと、これまで山鹿市教育大綱を作り上げてきた中で、野中委員も言われましたが、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のESDやSDGsに全てかかってくるのではないかと思います。</p>

	<p>ます。資料にあります国の第3期教育振興基本計画もすべて関わってくるような気がします。</p> <p>全体的に、世界的な流れとしての受け止めをしないといけません。これから先の子どもたちがどういう生き方をしなければならないか、例えば学力にしても一方的に教えられて知識を自分のものにするではもう通用しない、主体的に考えてどうやって課題を解決していくかという力が必要です。それに向けて取り組みをしてきています。</p> <p>ただ、4年間、教育大綱で取り組んできて、前回検証したのですが、その中でSDGsやESDについて学校側がどのくらい認識しているのかということがありました。取り組みをやっているところの紹介をされたのは1校だけでした。まだ他の学校もあったのでしょうか。</p> <p>私たちは総合教育会議や教育委員会、また、事務局としても、しっかり前を見ていかなければ世界の潮流から取り残されてしまうのではないかと危惧しているところです。</p> <p>そもそもSDGsやESDが何なのかを私たちが共通理解をして取り組みを進めていかないと学校が取り組みを進めるといふ所まで行かないのではないかと思います。</p> <p>次回、資料を用意していただいて、ここが大事である等、皆で共有させていただきたい。反省の中に出ていましたが、言葉は聞いたことがあっても実際に実践しているところが少なかったのも、どういうものかという言葉を知るだけではなくて、どう実践するのが大事ということです。ですから、どう実践に繋げていくかというところで、先ほど市長が言われましたことと関連付けて学校が教育委員会それから市長部局、地域の方とどう連携して取り組んでいくかということをやったほうが良いと思います。</p> <p>また、先ほど教育長からもありましたが、総合教育会議で予算については、ここで話すべきではないと以前言われましたが、文科省からでている通知には予算の編成執行について提案できると書いてあります。ここで決まることはなくても提案はできるとありますので、そこはしていいのではないかと思います。</p> <p>教育委員会は、お金を使わずに精一杯やってきていますが、どうしてもお金は必要になりますので、この総合教育会議で予算をお願いしたいという提案はさせていただきます。</p>
野中委員	<p>ESD自体は、2005年に国連から出され始めました。その前の国連自給宣言は全国で盛り上がったのに、次に出されたESDについては、なかなか浸透していきませんでした。ただ、山鹿市でも各学校で環境教育という形で頑張っていたと思います。ESDは既に日本で発表会があって一旦終わりましたが、持続可能な開発のための教育、その理念というのは教育分野ではそういうことを考えるような学習させなさいということで来たのですが、当時は国を挙げての論議になってきました。</p> <p>今は、SDGs自体を国挙げて、県でしている状態なのでやり易いと思います。熊本市も宣言都市になったと思いますが、それこそ担当部署がないと全体で動かなければならないのに、学校にESDやSDGsをして下さいと言っても上手くいかないのではないかと話題にしたところでした。</p>



	<p>山鹿市で先駆的にやられたのは城北高校だったと思います。竹原先生が率先して取り組まれました。村上首席教育審議員もE S Dが広まらなかったときに、ポンと出されたのがとても印象に残っています。</p> <p>上田委員が言われたように全てにかかってきます。</p>
堀田教育長	<p>村上首席教育審議員は校長会でも話をされています。部分的にはどの学校でもしていると思います。全体的にE S Dという言葉がきたときにはどうかわかりませんが、大なり小なりどこの学校でもしていると思いますが、村上首席教育審議員で掘んでいるところを説明してください。</p>
村上教育首席教育審議員	<p>市長のお話がありましたように、激動の時代を子どもたちが生き抜いていく中で、子どもたちが社会としっかり繋がっているという意識や、今、学んでいることが将来、社会とどのように生きるか、学ぶ意味等、教育長の言われる全国平均以上等の目標があるのですが、それとも含めて学んだことが将来どうなるのかを併せて考えていくことが大事であると思います。</p> <p>SDG sのフィルターで学校教育活動を見ますと、例えば人権教育もそこに入っていますし、環境教育も入っていますし、各学校いろんなところで学んでいます。</p> <p>それを社会と世界とどう繋がっていくか、学んだことが将来どんなふう役に立っていくのかを考えさせるうえで、SDG sのフィルターにかけるというのはものすごく大事なことでないかと思います。そしてこれは日本だけではなく世界と繋がっていくと考え、自分はやってみましたが、なかなか浸透という部分では力が足らなかったのですが、そういうことで仕掛けていくと教育効果が大きいと思います。</p> <p>全ての学校で既にやっていますので、この視点で整理してみるとたくさん浮かび上がってくるのではないかと考えています。</p>
上田委員	<p>新しいことをやりなさいということではないのです。いろんな分野で学校では既に取り組んできていることです。それが社会と、世界とどう繋がっていくか、そしてこれを意識して学ぶこと、繋がりを持つことが将来どう生きてくるのかということ子どもたちに分からせてほしいということです。</p> <p>やっていることはいろんなことがありますので、それをちょっと視点を変えて考えてほしいということです。</p>
立山委員	<p>この教育大綱はどこに向けて発信していくものですか。</p>
渡邊教育部長	<p>一人ひとり巻き込んでいくためには範囲は限らず、一人でも多くの方に方針は示したほうが良いと思います。</p>
立山委員	<p>やはり保護者の意見や子どもたちの意見等を入れていくのも良いと思います。</p> <p>もう少し子どもたちにも分かるような文章の書き方で入れてほしいと思いました。また、社会の動きが速いということは実際に感じております。子どもには、社会適応能力を付けていかなければ今から先は生きていけないということを常に言っています。</p> <p>そういうものを教育大綱に入れてほしいと思います。</p>
堀田教育長	<p>今、とても格差社会が言われています。教育委員会は2年前から貧困の連鎖を教育で絶つということを大きな目標としました。一人も取り残さないということで鹿北の小規模特認校もそうですが郡部はすべて1小1中になります。一貫教育を徹底してやっていくのですが、その中で、家庭環境、経済格差のために子どもたちは何</p>

	<p>の責任もないけれど取り残されているという現状があって、就学援助費も年々増えております。子どもの数は減っているのに増えています。それぐらい家庭で厳しい子どもが増えているということです。今、どこまで発信するのですかとありますが、皆にわかってほしいです。</p> <p>市長も教育大綱の中で、こういう思いを持っておられることが出てくれば、私たちも、もっといろんなところへ発信できると思います。</p>
大林総務部長	<p>先ほど、予算の編成と執行に関することについてお話がございました。これはご案内のとおり地方教育行政の組織及び運営に関する法律というのがございまして、それに基づいて教育行政も進んでおります。</p> <p>予算編成上は民生費であるとか議会費、総務費と同じレベルで教育費というものがございます。市の予算全体を編成するという意味では、同じような目線で同じ基準で方針に基づいて予算編成を行ってまいります。全体で行政活動は一つですので、そういう意味では全市全体の予算編成の中で教育行政を考えていくというスタンスで持っております。</p> <p>ただ、それぞれ教育部局の他、予算要求をいただきますが、時ときに応じて重要な教育需要が出てくると思います。学校再編があつていれば学校再編に要する経緯費が嵩みますし、子どもの貧困対策ということであれば、そこに重点化したような予算編成をする必要がございます。ですので、予算のメリハリがでてくると思います。時代に合った予算の編成というものを、常に私どもも考えているところです。</p>
早田市長	他にご意見はございませんか。
委員一同	ありません。
早田市長	<p>それでは、次にその他へ移ります。</p> <p>次回の開催について、説明をお願いします。</p>
佐藤教育総務課長	<p>まず、先ほどの野中委員のSDG sにつきましては、記載が漏れており大変失礼しました。上田委員が言われましたESDとSDG sの件につきましては、次回資料を揃えて対応したいと考えておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>次回の開催につきましては、先ほどスケジュールでお示ししましたとおり、第2次山鹿市総合計画後期基本計画が8月の策定予定となっておりますので、定例教育委員会の予定と併せまして、8月20日に開催を予定したいと考えております。</p> <p>次回の議案につきましても、引き続き教育大綱の策定ということでご案内いたしますので、よろしくをお願いします。</p>
早田市長	よろしいでしょうか。
教育長、委員一同	はい。
早田市長	それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。以上で議事を終わります。
徳永教育総務課企画係長	<p>本日の会議の全日程は終了いたしました。</p> <p>これをもちまして、令和3年度第1回山鹿市総合教育会議を終了します。</p>